

久留米工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	地理
科目基礎情報						
科目番号	1M02			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	材料システム工学科(2017年度以降入学生、但し、令和4年度は材料工学科を含む)			対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	『標準 高等地図』帝国書院。『図説 地理資料 世界の諸地域Now』帝国書院。※そのほか、適宜プリント・資料を配布する。					
担当教員	川浪 朋恵					
到達目標						
・現代社会で起きている事象を、位置や空間的な広がりとの関わりから考える力を身につける。 ・現代社会で起きている事象を、多面的・多角的な視点から考える力を身につける。 ・現代社会で起きている事象や空間的な配置・秩序などを成り立たせる背景や要因を考える力を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	社会的事象の背景や要因を説明することができる		社会的事象の背景や要因を理解することができる		社会的事象の背景や要因を理解することができない	
評価項目2	社会的事象を空間的な広がりでもとらえ、説明することができる		社会的事象の空間的な広がりを理解することができる		社会的事象の空間的な広がりを理解することができない	
評価項目3	社会的事象を多面的・多角的な視点から説明することができる		社会的事象を主観的に説明することができる		社会的事象を自分の言葉で説明することができない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	現代社会の地理的事象を系統地理的・地誌的に考えることで、地理的な見方・考え方を身につけることを目的とする。					
授業の進め方・方法	・スライドを用いて授業を進める。 ・講義中の質問や活発な議論は歓迎する。 ・周りの人間に迷惑のかかる行為（私語など）は慎むこと。 ・受講態度が劣悪な場合には、試験・レポートの結果に関わらず、単位を与えない。					
注意点	・期末試験80%、夏休み・冬休みの宿題20%を目安として評価し、60点以上を合格とする。 ・再試を行う。再試は60点以上を合格とする。 ・本科目は学修単位であるので、授業時間以外での学修が必要であり、これを課題として課す。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		地理への関心を深めることができる	
		2週	地理を考える・体験する		身近な事象の地域差を発見し、その理由を自分の言葉で説明することができる	
		3週	農業①		農業の地域性とその背景を理解することができる	
		4週	農業②		世界の農業の違いや共通点を説明することができる	
		5週	漁業と林業①		良漁場の成立条件と背景を理解することができる	
		6週	漁業と林業②		漁業・林業について、国内外の状況を比較して、地域性とその問題点を説明することができる	
		7週	漁業と林業③		日本の漁業・林業の状況や問題点を踏まえ、今後の課題について自分の言葉で説明することができる	
		8週	工業①		身近な事象から、工業についての関心を深めることができる	
	2ndQ	9週	工業②		工場の立地について、空間的な広がりから説明することができる	
		10週	工業③		シュミレーションを通して、工場の立地の条件を自分の言葉で説明することができる	
		11週	村落①		人類の居住地選択の歴史から、村落の立地条件を理解することができる	
		12週	村落②		人はどこに住むのかを、空間的な広がりから説明することができる	
		13週	都市①		自然と人との関わりによって、居住地が広がってきた歴史を説明することができる	
		14週	都市②		大都市にみられる諸事象について、その背景や要因を自分の言葉で説明することができる	
		15週	地図で読む集落		地形図を基に、居住地として適切な場所を見分けることができる	
		16週				
後期	3rdQ	1週	正月食にみる地理		特に雑煮の地域差とその背景を理解し、自分の言葉で説明することができる	
		2週	地図①		地図の歴史を理解し、人類の世界観の変化を説明することができる	
		3週	地図②		投影法を理解し、地図のゆがみについて説明することができる	
		4週	地図③		扱う統計データによって、作成する地図の種類を適切に選択することができる	
		5週	身近な地域の土地利用変化を探る①		久留米市の古い地形図を読み解くことができる	
		6週	身近な地域の土地利用変化を探る②		久留米市の地形図の変遷から、土地利用の変化を発見することができる	

		7週	身近な地域の土地利用変化を探る③	発見した久留米市の土地利用の変化が、なぜ起きたのかを説明することができる
		8週	身近な地域の土地利用変化を探る④	久留米藩と現在の土地利用の関係について、説明することができる
	4thQ	9週	身近な地域の土地利用変化を探る⑤	久留米市の発展について、久留米市の位置や他都市との結びつきから説明することができる
		10週	身近な地域の土地利用変化を探る⑥	筑後川と久留米市の発展の関係について、説明することができる
		11週	身近な地域の土地利用変化を探る⑦	これまでの知見から、今後久留米市の土地利用がどのように変化していくのかを考察することができる
		12週	国と国のつながり	シュミレーションを通して、世界経済の仕組みを理解し、自分の言葉で説明することができる
		13週	災害①	災害の特徴とその発生要因を正しく理解し、人に伝えることができる。
		14週	災害②	これまでの知見を踏まえ、災害に直面した時の対応を想定することができる
		15週	まとめ	これまでの内容をまとめ、日々の生活に活かすことができる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	

				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0